

病院機能評価を受審する目的



耳鼻咽喉科

もり ゆきたけ
森 幸威 先生

職員の皆様、先日の機能評価受審、お疲れ様でした。

さて、唐突ですが、『どうして病院機能評価を受けなければならぬか』この質問に答えられる人はどれだけいるのでしょうか。今更、何を言っているのかと思われる方もおられると思います。

『病院の質の向上』ですか。『外から良い評価を得るため』でしょうか。『病院に優秀な人材が集まるから』でしょうか。

一見これらの答えは正しいように思われますが、『病院の質とは何ですか』『良い評価とはどうい

うことですか』『優秀な人材とはどういう人ですか』これに答えることはできますか。『ああ面倒くさい。機能評価は無事終わって、おそらく大丈夫そうなのだから、もういいんじゃない』と思われるかもしれません。

しかし私は、良い機能評価を受けたら、これからが大切と言いたいのです。我々職員が、病院の機能評価が上がったら、『これくらいの報酬を頂いて当然』と、患者に対して心のどこかで思ってしまうことではないでしょうか。また、逆に患者の方も『機能評価を通った病院だから、これくらいの医療の提供は当然』と思って、当院を受診しないでしょうか。この図式は、まさに病院と患者、すなわちお金を受け取る方とお金を支払う方の損得勘定にばかり重点がおかれているように思えてなりません。病院機能評価が上がっても、それだけでは手放しでは喜べないと思います。

病院の質を上げる為に2つの事を提言したいと思います。

1つめは、病院評価の手助けになる1つの指標に『臨床評価指標』というものがあります。これは、

病院の設備や入院患者の内容、手術件数、死亡率、感染対策、感染発生率、再入院率、高額薬剤利用率、患者満足度、職員教育などの内容を、一般に広く公開し、患者が医療機関を選び、受診する際の参考にするものです。個人的には、『臨床評価指標』の公開には大賛成です。これら病院の指標を良いものにするために、職員が努力する動機になると思うからです。

2つめは、職員の個々のスキルを上げることです。病院の機能評価が上がったのに、私たち1人ひとりが変わらなければ、全く意味がないと思います。

この2つをクリアして初めて良い病院と云えるのではないのでしょうか。

このコーナーは、医師の趣味やペットなど、比較的まったりしたコーナーですが、急いで書いてくれと急かされましたので、辛口の内容になってしまいました。次回は、まったりしたことを書こうと思います。

森先生は、毎週月・火・金曜日と木曜日午後の外来診察と入院患者さんを担当されています。

Doctor's Eyes